

# 三河地震～私の町で起きた地震～

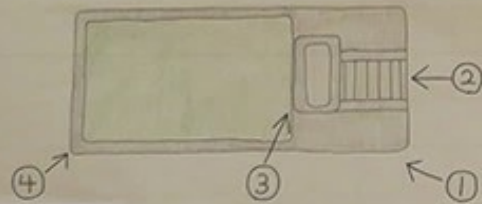
丈山小学校 6年 浅井 幸治郎

## 1 きっかけ

私の家のお墓がある和泉町の向畑の墓地には、三河地震の精霊碑があります。そこには地震で亡くなった方々が眠っています。その中には私の親戚で亡くなったご家族もみえます。学校では三河地震について詳しく習っていませんでしたが、地震で私の親戚も亡くなっているのにそのことを知らないのははずかしく思い、三河地震について詳しく調べてみようと思いました。

## 2 精霊碑について

自分の調べるきっかけになった精霊碑を調べてみました。



② 石碑の正面には「震災死者精霊碑」と書かれています



④ 地震で亡くなった831の方々が埋葬されています



全体の様子

③ 石碑の裏面には、次の文章で亡くなった方のお名前が書かれています

昭和20年1月13日午前3時40分三河地方の大地震により一瞬にして和泉区内400余戸の内倒壊家屋300余戸に及び死者83名に達す時恰も太平洋戦の只中にて空襲のため火葬に付す能はず隣接航空隊の協力によりこの地に埋葬し爾来十余年を経てその十三回忌を期し和泉町民と遺族相謀りこの墓碑を建立し永く冥福を祈る。

## 4 三河地震とはどんな地震だったのか～お話を聞く～

精霊碑の内容だけでも、自分の住んでいる和泉町で多くの方が亡くなったこと、多勢の方が埋葬され、たくさんの被害があった事がわかりました。

## 3 三河地震について

### (1) 三河地震とできごと

図書館に行き、本で三河地震について調べました。まず三河地震のあった年の前後のことをまとめてみました。

(年表)

- 昭和16(1941)年12月7日 太平洋戦争が始まる
- 昭和19(1944)年12月7日 東南海地震が起きる
- 昭和20(1945)年1月13日 三河地震が起きる
- 昭和20(1945)年8月15日 太平洋戦争が終わる
- 昭和32(1957)年1月13日 精霊碑が建てられる

三河地震は戦争中に起きた地震でした。このため、戦争中の情報統制により、本当の被害状況が新聞などでおおよかに報道されませんでした。また終戦後の混乱により、戦争中の資料(公文書や写真、個人の日記など)が処分されてしまったことなどから、「幻の地震」と呼ばれたそうです。

三河地震が起きる37日前に東南海地震と呼ばれる地震があり、愛知県や三重県で大きな被害がありました。現在の安城市でも震度6のゆれがあり、三河地震の被害拡大の大きな原因となりました。

### (2) 地震としての三河地震

三河地震は昭和20(1945)年1月13日午前3時38分に起きた地震で、ちょうど寝ている夜中に起きた地震です。

地震の震央(震源の真上の地点)は三河湾でした。震度(ゆれの強さ)は5~7度で、マグニチュード(地震のエネルギーの規模)は最大6.8でした。(マグニチュードは7.1という説もあります)。地震の影響が特にひどかった地域は、安城市の南部地域(旧明治村や桜井村)と西尾市の東部地域でした。私の住む和泉町やとなり町の城ヶ入町は旧明治村の一部で震度7という非常に大きなゆれにおおわれました。

なお、三河地震では深溝断層という大きな断層(地層のずれ)ができました。

それぞれの家で一人ずつ亡くなった方があったそうです。

都築さんの家の北側には本龍寺があります。庫裏(お寺の台所)ご住職と家族の



(三河地震の震度分布と深溝断層)



和泉町の精霊碑  
和泉町は震央から遠くはなれていましたが震度7という大きなゆれにおそわれました

(深溝断層)

三河地震によって、深溝断層という大きな断層(地震のずれ)ができました。幸田町のこの地点では最大1.5mのたてのずれと、最大1mの横のずれができました。



← 柱の赤い部分がたてのずれです

断層



← 断層

(3) 三河地震の影響

○本で地震の住宅への影響を調べると愛知県では全壊は7,221件、半壊は16,555件でした。全壊とは、例えばペレハンコになるなど、全く住むことができない壊れ方で、半壊とは、直せば住むことができる壊れ方のことです。

和泉とその周辺の地域の影響は次のとおりでした。(昭和20年では石井は城ヶ入に含まれていました)

旧明治村の大字	全世帯数	住宅		
		全壊	半壊	合計
和泉	391	310	81	391
榎前	185	38	147	185
城ヶ入	288	182	80	262
東端	461	77	121	198
根崎	301	61	83	144

和泉は約8割、城ヶ入は約6割の住宅が全壊しています。

○地震の人への影響を調べると、愛知県では死者は2,306人でした。和泉とその周辺の地域の人への影響は次のとおりでした。

旧明治村の大字	死者	重傷	軽傷
和泉	88	60	120
榎前	15	10	23
城ヶ入	66	50	100
東端	24	5	36
根崎	27	9	19

(和泉の精霊碑のある共同墓地には83名の方が埋葬されています。)

和泉と城ヶ入は亡くなった方が多くなっています。夜中の地震で、ほとんどの人が家の中で寝ていること、全壊した家の多さが亡くなった方の多さに影響していると思いました。

(3) 神谷忠夫さんのお話を聞く

母屋をジャッキで起こしたり、つかえ棒をかたりして4月には家で生活できるように



#### 4 三河地震とはどんな地震だったのか～お話を聞く～

三河地震について、本だけでなく、自分の周りの方に地震のお話を聞いて、言い伝えや体験から実際どんな地震だったのか学びました。

##### (1) 私のおじいさんに聞く

私のひいおばあさんは、地震を実際に体験しているので、ひいおばあさんの話を聞いていたという私のおじいさんにお話を聞いてみました。

三河地震が起きた時、ひいおばあさんは20歳で今の安城市箕輪町に住んでいました。

地震が起きたのは夜中だったので寝ていたのですが、下からトーンと突き上げられるようなゆれて目が覚めて飛び起きたそうです。箕輪の家もおきなゆれて傾いてしまいました。

和泉の方が地震のゆれがひどかったというお話をあり、ひいおばあさんはお姉さん家族の住む和泉にむかいました。

お姉さんは和泉に住んでいて、お姉さんと、旦那さん、子ども5人の7人家族でした。地震でお姉さんの家は倒れてしまい、お姉さんと、旦那さん、子ども2人が建物の下敷きになってしまいました。

私のおじいさんが話してくれた内容はここまでです。

ひいおばあさんは、三河地震の話をすると思い出して悲しくなってしまうので、あまりおじいさんにお話されていなかったそうです。

##### (2) 都築久米一さんに聞く

精霊碑のお世話をされていた、和泉町にお住まいの都築久米一さんに三河地震についてお話を聞いてみました。

###### ○都築さんにお話

都築さんは昭和23年生まれなので地震は直接体験していませんが、都築さんのお母さんが27歳の時地震を経験されました。

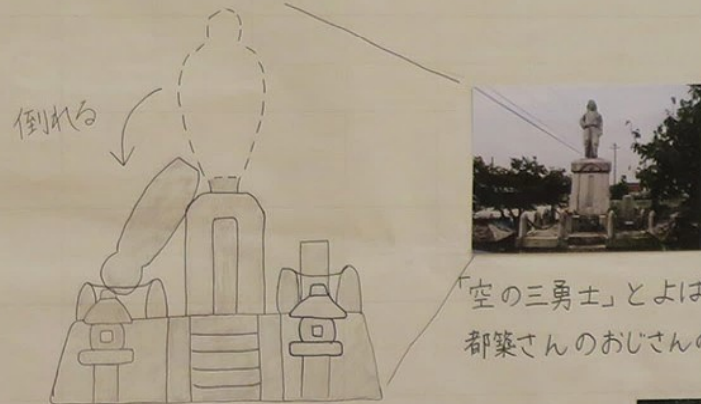
都築さんの家は本龍寺の南側にあり、三河地震があった時、ご家族8人で住んでみえましたが、みなさんご無事だったそうです。都築さんご自宅は、倒れずにすみましたが、都築さんの家の東側の家と南側の家は全壊してしまっ

それぞれの家で一人ずつ亡くなった方があったそうです。

都築さんの家の北側には本龍寺がありますが庫裏(お寺の台所や住職と家族の住む建物)は倒れなかったものの本堂が倒れてしまったそうです。地震の後、お寺を復興しなければと、お寺の大勢の檀家さんが、自分たちの住む家ごとをあとまわしにして、お寺の復興につとめられたそうです。

###### ○地震のつめあと

都築さんの家にある石像が三河地震で倒れてしまったと教えていただいたので、石像を見せてもらいました。



「空の三勇士」とよばれた  
都築さんのおじいさんの石像です。



石像の足の部分



欄干の部分



石の灯ろう

三河地震のゆれで石像の足が折れ、倒れてしまいました。その時に倒れた石像が当たり、欄干や灯ろうが壊れてしまいました。石像は戦後に直されましたが、教えていただいた石像などをよく見ると地震のつめあとを見つけることができました。



### (3) 神谷忠夫さんのお話を聞く

都築久米さんから令和4年1月13日に本龍寺であつた三河地震でせくなつた方々の追悼会(ご供養する集まり)で、三河地震を経験された神谷忠夫さんのお話の録音テープがあるということで、聞かせていただきました。

また、神谷さんにお電話でお話を聞きました。

#### ○ 神谷忠夫さんのお話

1月13日の夜3時過ぎに地震があり、私は父に抱きかかえられて家の外に助け出されました。私は当時6歳でした。

1月の夜は寒くて仕方なかつたので、庭にこもをしいて外に逃げていると余震でドーンという大きな音がしました。父がお寺の本堂(話し所にもなっていました)が倒れた、といっていました。

すぐ隣の家の3歳の子が顔を傷だらけにしてやってきて「おばあさんが…」と言ってそれ以上ものが言えませんでした。父と急ぎ助けに行きましたが、家が倒れ下敷きになってしまつて、その子のおばあさんは助かりませんでした。

まだ2歳にならない私の妹も一緒に外にいたので、余震の合間に家族が横屋に飛び込んで布団を出してきてくれて寒さをしのぎました。

夜が明けてくると真っ白な雪がおりていました。三件ほど家が残っているのがわかりましたが、周囲の家はみんな倒れてしまつていました。着の身着のまま外に逃げたので、家族が余震の合間を見て家から服を持ってきてくれました。

明治航空隊の人が助けに来てくれて、尋常小学校の校庭にこもをしいてせくなつた方を並べて供養しました。火葬場は壊れて何もできなかったため、町内の人が兵隊さんが来てくれて棺を83個作つてせくなつた方を埋葬することができました。

三河地震の後も余震が続いてこわかつたので庭にわら小屋を建て、竹で寝床を作つて生活しました。わら小屋生活は余震の様子を見ながら、もういいかな、もういいかなと長く続きました。あたたかくなつたころ、わら小屋で寝ていて朝起きるとへりが布団の上の、いてびくりにしたのを覚えています。

母屋をジャッキで起こしたり、つかえ棒をかたりして4月には家で生活できるようになりました。

私はわんぱくでよく外で遊んでいたのですが、町内に1mの断層があるところもありましたが平気で遊んでいました。

戦争中だったので、地震の情報を出してくれない、また、電気をつけてはいけないような状況もあつて、地震と戦争が思い出の中で重なつています。

### 5 三河地震を調べてみる

三河地震は今から77年前にあつた地震です。いざ調べようとすると地震のことがわかるものを町の中でほとんど見つけることはできませんでした。でも、精霊碑があつたり、地震の事を知っている方がみえたり、地震を経験された方がみえたので、なかなかわからなかつた三河地震のこわさがわかつた気がします。

小学校の教科書には三河地震について本当に少ししか書いてありません。だけど調べてみると、和泉町に住む方だけでも地震で一度に83人の方々がせくなつたのです。そのことをここに住んでいる私たちが知らないのはすごくいけないこと、申し訳ないことだと思います。これからは、時間もたつと、地震を経験された方がもつと少なくなつてしまつていきます。そうすると地震の記おくがうすれてしまうかもしれません。そうならないためにも、今回調べて分かつたことを伝えていきたいと思つています。

私は、三河地震を調べてみて、精霊碑にお参りするときの思いがさらに強くなりました。

#### (参考にした本)

○三河地震犠牲者遺族会体験手記編集委員会編『三河地震体験手記 恐怖の一月十三日』発行 和泉町犠牲者遺族会 平成6年

○編集・発行 安城市歴史博物館『企画展 三河地震 直下型地震の恐怖』平成18年

○和泉町史編集委員会編『和泉町の歴史』発行 和泉町内会 令和2年

○木股文昭 林能成 木村玲政著『三河地震 60年目の真実』発行 中日新聞社 平成17年